

# 刑法特講 I

科目ナンバリング CRL-307  
選択 2単位

久保田 隆

## 1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、刑法総論・刑法各論の「2周め」として、1・2年次に学んだ内容を「広く浅く」復習したうえで、重要な判例について「狭く深く」学んでいきます。春期の「刑法特講I」では、刑法総論の主要論点に関する判例を毎回2つずつ検討します。

## 2. 授業の到達目標

- ①刑法総論に関する主要な論点について、判例の内容を踏まえながら説明できる。
- ②刑法総論に関する最新の論点について、問題の所在および議論状況を的確に説明できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

【対面での試験を実施できる場合】学期末試験(100%)によって評価します(講義内容に関する質問・コメントなどを募集し、その内容に応じて加点することがあります)。  
【対面での試験を実施できない場合】学期末レポート(100%)によって評価します(加点については同上)。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

十河太郎＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱 『刑法総論判例50!』 有斐閣

参考文献

佐伯仁志＝橋爪隆〔編〕 『刑法判例百選 I 総論〔第8版〕』 有斐閣

成瀬幸典＝安田拓人〔編〕 『判例プラクティス刑法 I 総論〔第2版〕』 弘文堂

井田良＝佐藤拓磨〔編著〕 『よくわかる刑法〔第3版〕』 ミネルヴァ書房

青木人志 『判例の読み方 シッシー&ワッシーと学ぶ』 有斐閣

## 5. 準備学修の内容

毎回、講義の最後に翌週の授業の内容を予告しますので、上記教科書の該当箇所(特に、事案の概要)を読んで予習してください。刑法総論について簡単に復習したいという人には、上記参考文献(『よくわかる刑法〔第3版〕』)の該当箇所を一読することをお勧めします。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・「刑法総論 I・II」をすでに履修済みであることを前提に授業を進めます(刑法初学者も歓迎します)。
- ・講義では、毎回レジュメを配布します(LMSでも配信予定)。
- ・六法を毎回必ず(1)持参してください(小型のもので構いません)。
- ・質問や相談は、講義の前後に受け付けるほか、LMSにも専用の項目を設けます(内容の濃い質問やコメントは、翌週の講義でとりあげることがあります)。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 <イントロダクション> 講義の進め方|講義内容の概観|判例の探し方・読み方
- 【第2回】 <因果関係> 第三者の故意行為の介入|被害者の過失行為の介入
- 【第3回】 <不作為犯> 不作為の因果関係|不作為による殺人
- 【第4回】 <故意> 未必の故意|認識内容の具体性
- 【第5回】 <錯誤> 具体的事実の錯誤(方法の錯誤)|抽象的事実の錯誤
- 【第6回】 <過失犯> 予見可能性の対象・程度|予見可能性の対象としての因果関係
- 【第7回】 <正当防衛①> 積極的加害意思と急迫性|自招侵害
- 【第8回】 <正当防衛②> 防衛行為の相当性|過剰防衛の限界
- 【第9回】 <緊急避難> 現在の危難と補充性|強要による緊急避難【※LMSを利用したオンデマンド方式にて実施】
- 【第10回】 <責任> 原因において自由な行為|違法性の意識
- 【第11回】 <未遂犯・中止犯> 早すぎた結果の発生|中止行為の任意性
- 【第12回】 <正犯と共犯①> 共謀共同正犯(1)|共謀共同正犯(2)
- 【第13回】 <正犯と共犯②> 共犯関係からの離脱(解消)(1)|共犯関係からの離脱(解消)(2)
- 【第14回】 <正犯と共犯③> 承継的共犯(1)|承継的共犯(2)/共犯と身分
- 【第15回】 【対面での試験を実施できる場合】春期のまとめと学期末試験  
【対面での試験を実施できない場合】春期のまとめと学期末レポートの講評